

1 実施日時 令和6年10月4日(金)

児童のページ

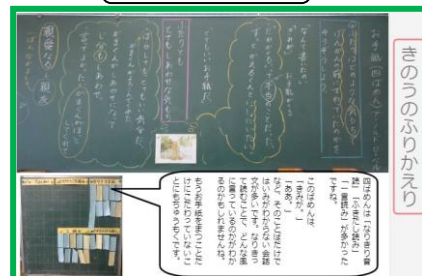
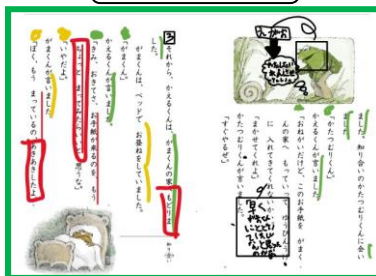
先生メモ

2 実施学年 2年

3 実施教科 国語

4 単元名 「お手紙」

5 学習の流れ



単元目標：じんぶつがしたことやようすをくわしくそうぞうしよう

- 1 登場人物の様子が読み取れそうな叙述にサイドラインを引く。
- 2 サイドラインを引いた叙述を根拠に、登場人物の詳しい様子や気持ちを想像する。
- 3 グループで考えを共有したり、話し合ったりして読み深める。
- 4 想像したことを学級全体で共有する。
- 5 自分の学びを振り返る。

6 Chromebook の活用

- スクールタクトを使用し、Chromebook の画面上で教材文を読んだり、自分の気づきや疑問を書き込んだりする。
- スクールタクトを使用し、友達の考えを共有する。
- スクールタクトの先生メモにある学習記録を見て、既習内容を振り返る。

7 児童の様子

- 教材文を「紙」→「電子」へ

教科書にサイドラインを引く学習活動に対する児童の声を聞くと、間違えたら消しづらく汚くなるという面から、心理的ハードルが高い活動であると感じた。そこで、教材文を電子化することで、書いたり消したりすることが容易にできるようにし、児童が心理的な負担を感じることなく、積極的に学習活動に取り組める学習環境を目指した。

- 個別最適な学びへの授業改善

教材文を電子化したことで、児童が教材文に書き込んだ気づきや疑問の共有が容易となり、個々の児童の躓きを指導者が見取りやすくなった。それにより、児童に気付かせたいポイントを押さえた授業作りに生かしたり、机間指導の際、個々の児童に合わせた助言をしたりすることができた。

また、児童の教材文には指導者が書き込むこともできる。国語に苦手意識がある児童には、事前にヒントとなる叙述や助言を書き込むことで、自分の力で学習を進めようとする姿も見られた。

- 学びの見える化

毎時間の板書写真をデータとして児童が見られるようにした。また、そこに指導者からのフィードバックを記載し、児童がいつでも前に学んだ内容を振り返ることができるようにした。記録が蓄積されていることで、児童は自らの学びを実感し、また、新たな課題に取り組む際、学んだことを振り返りながら学習に生かすことができた。

8 振り返り

教材文を電子化したことで、「即時共有」や「記録の蓄積」など、デジタルの強みを児童自身が実感しており、紙媒体である教科書の使用も可能としていた中で、全児童が電子化された教材文を使用していた。反面、指やタッチペンによる書き辛さ、不安定ネット環境による学習への影響、小さな画面による読み辛さ等、デジタルの弱みも見えた。今回の実践をもとに、児童がより主体的に学びに向かうことのできる学習環境をデザインしていく。

